

公開実用 昭和59—43348

B

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭59—43348

⑫ Int. Cl.³
B 65 D 41/04

識別記号
6862-3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)3月22日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑭ キャップ付き容器

藤井寺市川北2-2-4 紀伊産

業株式会社若葉寮内

⑮ 実 願 昭57-139832

⑯ 出 願 人 紀伊産業株式会社

⑰ 出 願 昭57(1982)9月14日

大阪市東区本町1丁目1番地

⑲ 考 案 者 北英樹

明細書

1 考案の名称

キャップ付き容器

2 実用新案登録請求の範囲

容器(1)の肩部(2)から円筒状の口頸部(3)を突設し、この口頸部(3)の外周に螺合手段を設け、容器(1)に嵌合するキャップ(4)は頂部(4)から容器(1)と同じ断面形状を有し、前記口頸部(3)に被嵌しうる内周に前記螺合手段と螺合しうる螺合手段を設け、前記口頸部(3)の基部において直径方向に係合凸部(5)(5)を設けるとともに前記キャップの下面に前記係合凸部(5)(5)に対応して切欠部(6)(6)を設け、この切欠部(6)はキャップの下面より前記螺合手段のリード角(θ)以下の角度(α)で斜め上方へ傾斜した傾斜部(6)の上端よりさらに上方へ係合凸部(5)(5)上部の形状に対応した形状の係合凹部(6)とを連設してなることを特徴とするキャップ付容器。

3 考案の詳細な説明

本考案はキャップ付き容器に関するものであり、その目的とするところは、容器とキャップの位置



合わせを行なうことができ、かつキャップの締付けの終了を嵌合音および手応えにより感知することができるとともに確実な締付け状態を得ることのできるキャップ付き容器を提供することにある。

図面に示す実施例に従い説明すると、第1図において、(1)は略正方形の断面を有する容器であり、その肩部(2)の中央部には円筒状の口頸部(3)が突設され、口頸部(3)の上端部には取出口(6)が設けられている。口頸部(3)の外周面には螺条(4)が設けられ、また口頸部(3)の基部からは肩部(2)に連なった係合凸部(5)(5)が 180° ずつずらして2個設けられている。④はキャップであり、頂部④からは容器(1)と同様な略正方形の断面を有する周壁④が垂設されている。キャップ④の内周には前記口頸部(3)に被嵌しうる内径を有しており、その内側には第2図に示すように口頸部(3)に設けられた螺条(4)に螺合しうる螺条④が設けられている。内周の下端には前記係合凸部(5)(5)に対応して切欠部④④が設けられ、この切欠部④はキャップ下端④より斜め上方へ切欠することにより形成した傾斜部④と、この

傾斜部の上端よりさらに上方へ係合凸部(5)の上部形状に対応した形状を切欠して形成した係合凹部とを連設してなるものである。この傾斜部は、キャップ下端と傾斜部のなす角度(α)が、螺栓(4)のリード角(β)よりやや小さくなるよう形成されており、またキャップの締め付けの終了するやや手前において、傾斜部のうち、キャップ下端に近い部分が係合凸部(5)の上端部(7)に接触するような位置に配設されている。

上記の容器(1)にキャップを回転しながら締め付けていくと、第4図に示すように傾斜部のうち、キャップ下端に近い部分が係合凸部(5)の上端部(7)に接触し、キャップの回転に抵抗する状態となる。この状態からさらに回転力を加えてキャップを回転すると、傾斜部の傾斜角度(α)は螺栓(4)のリード角(β)以下に形成されているので傾斜部は次第に大きな弾性変形を伴ないつつ係合凸部(5)の上端部(7)に密接して移動する。そしてキャップをさらに回転すると第5図のように傾斜部の上端が係合凸部(5)の上端部(7)に最も大

きな弾性変形を伴なって接触した状態となつた後、嵌合音を伴なって係合凹部(4)と係合凸部(5)が嵌合するとともに傾斜部(6)が復元して締付けを完了する。なお、キャップ(2)を取り外す際には上記と逆の手順により行なうことができる。

尚、この容器(1)の材質は合成樹脂・ガラス等がよい。キャップ(2)は合成樹脂等が適当とおもわれる。さらに傾斜部(6)の一部に突起(7)を設けることにより、嵌合された状態でキャップが自然に弛むことがなくなる。

本考案に係るキャップ付き容器は上記のような構成を有するものであるため、橢円形あるいは多角形等のいわゆる非真円容器においてもキャップ締め付け時に容器とキャップの位置を正確に合わせることができる。さらに、キャップの締め付けの終了を嵌合音および手応えにより感知することができるので、中途半端な締め付け状態で放置されるおそれがないし、また締め付けの終了した状態では係合部同士が嵌合された状態であるためキャップが自然に弛むこともない。それに加えて、

係合部同士が嵌合された状態で締め付け状態が保たれるため、螺合手段のリード角ピッチを大きくしても弛む心配がないので、ごく僅かの例えは90°程度のキャップ回転により締め付けが可能であり、いわゆるワンタッチキャップとして用いることができる。

また、本考案においてはキャップ側には係合手段としての突片等を用いる必要がないため製造に手数を要さず、したがって安価なキャップ付き容器を提供することができる。

4 図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す、容器およびキャップの斜視図、第2図はキャップ嵌合部の要部を示す断面側面図、第3図は容器の嵌合部の要部を示す側面図、第4図、第5図、第6図はキャップ締め付け時の係合部の状態を示す要部の説明図、第7図はキャップの嵌合部を示す断面図、第8図はキャップの底面図。

- (1) … 容器 (2) … 肩部 (3) … 口頭部 (4) … 螺条
- (5) … 係合凸部 (6) … 取出口 (7) … 上端部



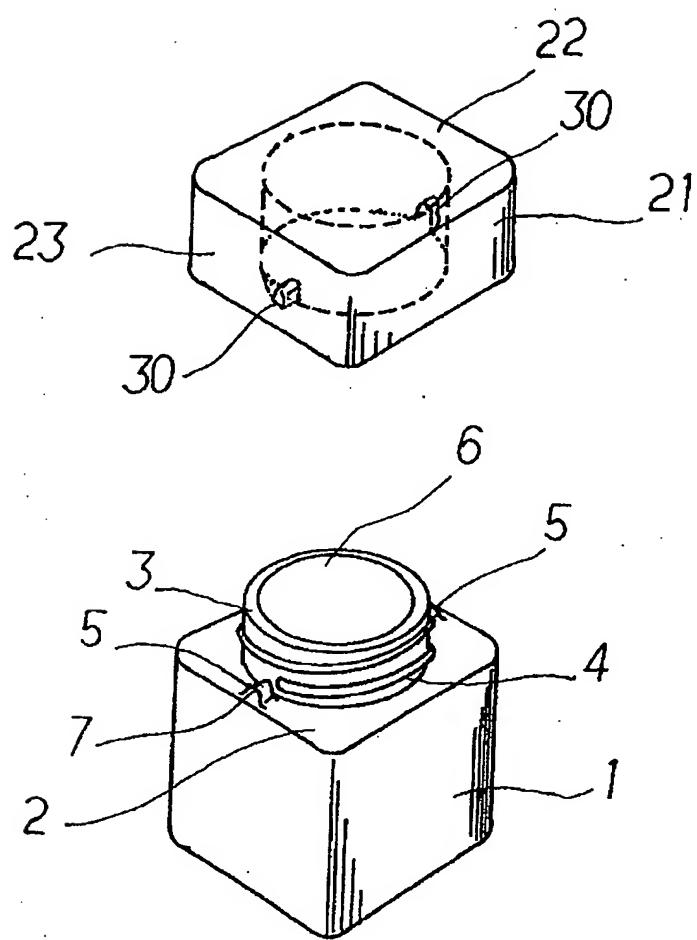
(1) … キャップ (2) … 頂部 (3) … 周壁 (4) … 傾斜部
(5) … 係合凹部 (6) … 螺絲 (7) … 切欠部
(8) … キャップ下端 (9) … 傾斜部上端 (10) … 突起

実用新案登録出願人

紀伊産業株式会社



第1図

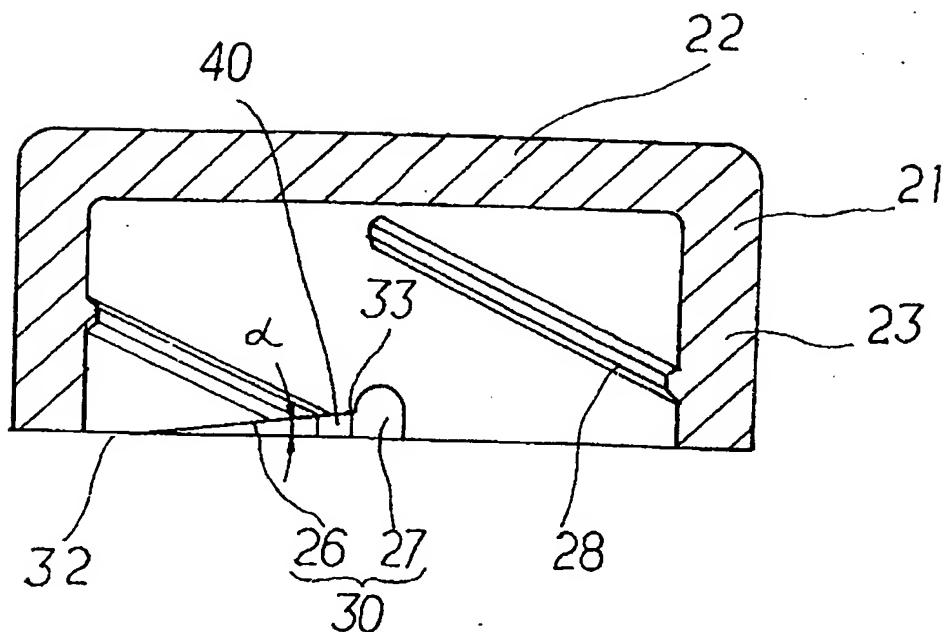


4417

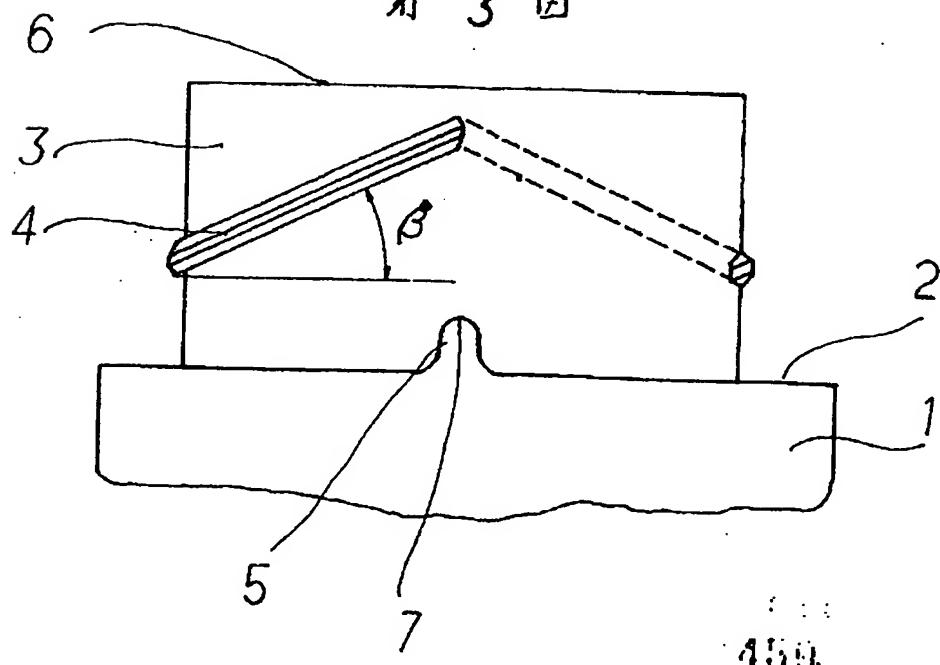
実用新案登録出願人 紀伊屋業株式会社

新開田・新開田

第2図



第3図

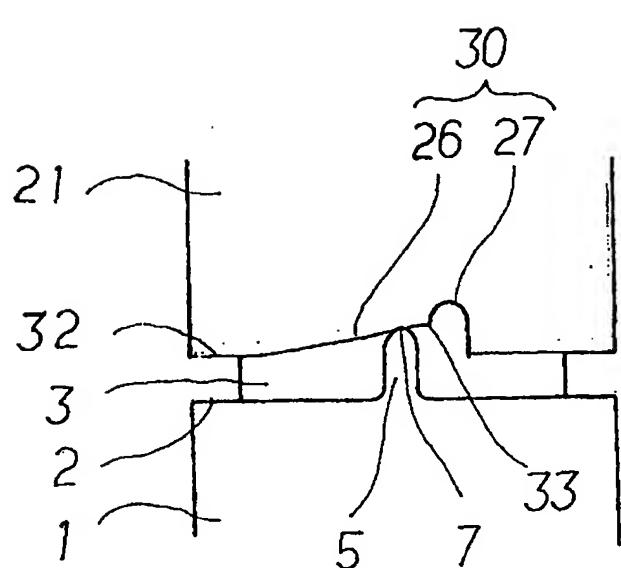


43348

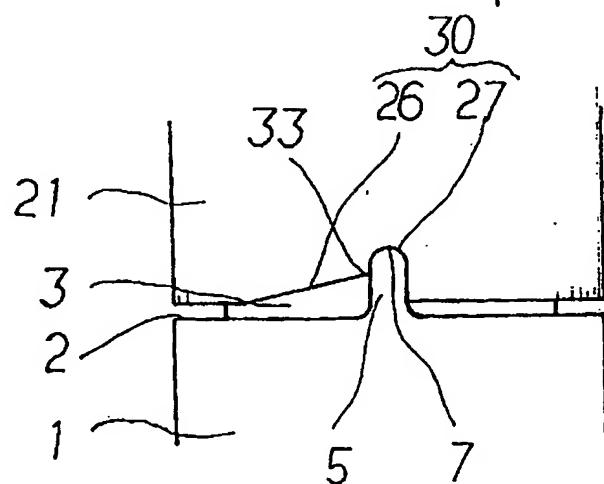
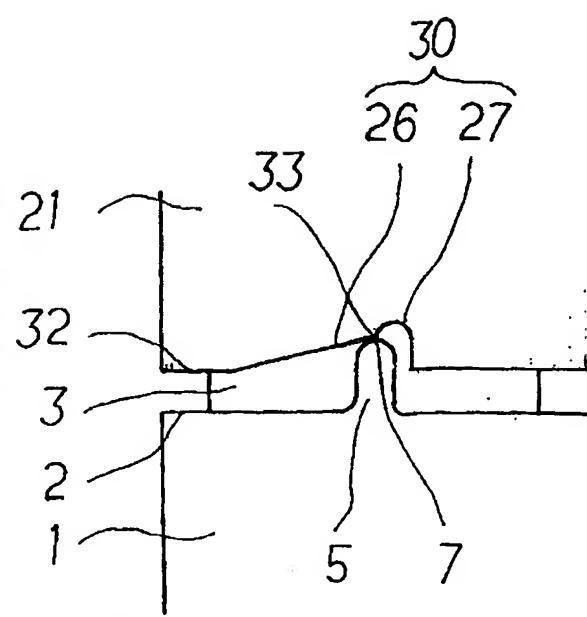
实用新案登録出願人 紀伊産業株式会社

昭和59-43348

第4図

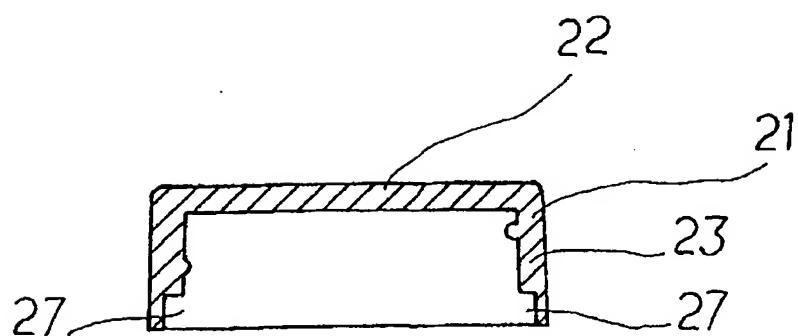


第5図

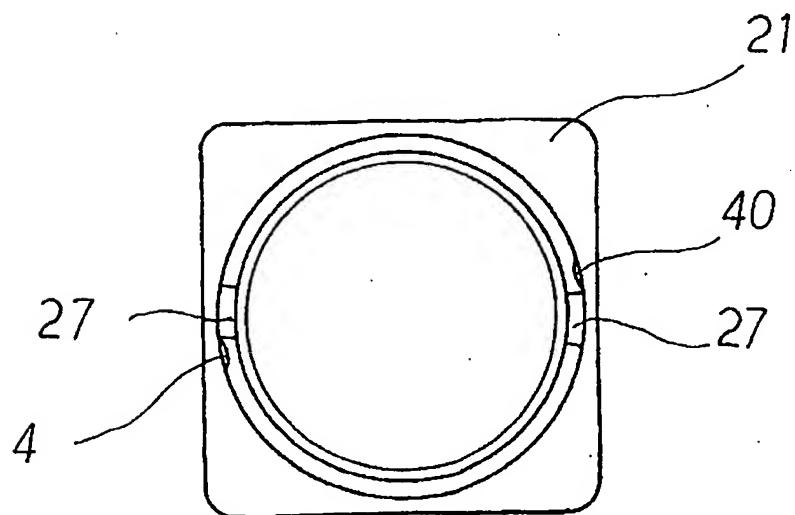


第6図

第 7 図



第 8 図



452

実用新案登録出願人 記伊産業株式会社